

第2回見沼中学校区地域協議会 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月27日（火） 午後6時30分～8時
- 2 開催場所 総合福祉会館「やすらぎの里」第3研修室
- 3 出席者 51人
- 4 教育委員会 鈴木教育長、江利川学校教育部長、藤井生涯学習部長
荻原学校教育部長、諸貫教育総務課長、白井主幹、須永主幹
久積、嶋田、柏瀬

5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
教育長	2 あいさつ
教育総務課長	3 見沼中学校区3小学校（北河原小、荒木小、須加小）の保護者意見交換会の報告及び義務教育学校に関する説明
参加者A	4 意見等 見沼中学校区の再編成計画について、それぞれの小学校で保護者に対して説明をしたということだが、保護者から十分理解を得られたのか。
教育総務課長	8月18日に荒木小、須加小、北河原小の保護者と意見交換を行った。保護者からは「子供たちのことを考えると、それぞれの学校を一つにすることを進めてほしい」という意見が多数あった。しかし、「小中一貫教育や義務教育学校についての情報が少なく、小学生と中学生が共に学校生活を送ることに対して不安だ」という保護者もいた。小中一貫教育や義務教育学校に対しての保護者の理解を得るために、情報提供は引き続き行っていく。現状と比べてさらに良くなるように、教育委員会としては小中一貫教育を全市的に進めたいと考えている。
参加者A	義務教育学校について詳しい説明をしていけば、保護者は再編成することと義務教育学校を設置することに了承していると理解してよいか。
教育総務課長	義務教育学校を含めて、新しい学校で子供たちが生活する上で不安のないように具体的に調整をしていけば、再編成と義務教育学校の設置について賛同をいただいていると認識している。

<p>参加者B</p>	<p>① 小学1年生から4年生までが学ぶ校舎を増設することのだが、青写真やデザインなどはできているのか。</p> <p>② 見沼中学校の敷地内で増設となると、校庭が狭くなるが大丈夫か。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>① 施設の建設期間は非常にタイトである。具体的なデザインは、まだできていない。現在の見沼中学校の教室の配置や活用状況を確認したところ、小学5年生と6年生には現在の校舎で学んでもらおうと考えている。そして、小学1年生から4年生が学ぶ校舎は、増築しないといけない。1学年1クラスを想定すると普通教室を4教室、小学生の規格に合ったトイレを設置する必要がある。来年度設計し、再来年度に建築していく。</p> <p>② 市内の中学校の敷地は、どこもほぼ同じ規模である。よって、見沼中学校は市内の中学校と比べて、校庭が特別狭いという訳ではない。小学生も校庭を使用するので、安全性や授業で重複しないようにするなどの配慮が必要である。見沼中学校と荒木小学校の時間割を確認し、特別教室の利用や体育の授業がどれくらい重複するか見たが、調整していない中で授業が2つか3つほどしか重複していなかった。よって、小中一体の学校としてカリキュラムを編成すれば調整ができる。しかし、授業だけでなく朝や昼休み、放課後などに小学生と中学生が活動する際に、危険が及ばないように配慮していく必要があると考えている。</p>
<p>参加者B</p>	<p>具体的な検討を始めないとスケジュールが心配であるので、早急に開校準備委員会を設置してほしい。</p>
<p>参加者C</p>	<p>小学1年生から4年生までの校舎を増設することのだが、各学年2クラスずつと想定しているのか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>これからは当面1クラスの編制になると予測している。予備の教室が必要なのかは、確実に2クラスになる学年があるかを確認しながら検討していく。全ての学年が2クラス、つまり8教室を設置することは考えていない。</p>
<p>参加者D</p>	<p>現在、北河原小は卒業後、見沼中学校と南河原中学校を選択できるが、ある時点で学校の選択を認めないと説明があった。「ある時点」とは、いつになるのか。</p>

教育総務課長	見沼中学校区で再編が進めば、北河原小は閉校となり、小学生は見沼中学校に設置する予定の義務教育学校に通学してもらうことになる。再編成以降は、北河原地区の児童は、中学校は義務教育学校に進学してもらうことを考えている。具体的な時期については、保護者と個々に相談していく。
参加者D	自宅から見沼中学校までの距離を測ったところ、7キロメートル以上ある。中学生もスクールバスを利用することを検討しているというが、夏休みの部活動に参加するときにも利用できるのか。
教育総務課長	これから、どの家庭がどのくらいの通学距離があるのかを具体的に見ていく。国の基準では、通学距離を6キロメートル以内とされている。7キロメートルというのは、遠いと思う。基準を超えた通学距離においては、中学生のスクールバスの利用を検討する必要もあると考えている。
参加者D	子供たちの安全を第一に考えて、これから検討してほしい。
教育総務課長	子供たちの教育環境を整えていくとともに、安全についても第一に考えながら計画を進めていく。
参加者E	<p>① 再編成に向けて、埼玉県教育委員会との連携や支援などがあるのか。</p> <p>② 令和4年4月1日に義務教育学校の開校に向けて、開校準備委員会を組織し、各専門部会で具体的に検討していくとのことだが、通常は基本構想や基本計画を立てて、実施計画あるいは推進計画に基づいて取り組んでいくと思う。教育委員会は、どのような手順で進めていくのか。</p> <p>③ 新しい事業は、失敗は許されない。人事面、予算面、施設面などにおいて色々努力をしていると思うが、失敗してしまった場合、子供たちにとって全然意味がなくなる。小中一貫教育のアンケートでは、「やってよかった」という調査結果があったが、その裏では大変な努力をしていることだろう。ぜひ、教育委員会も厳しい予算ではあるが、行田市として初めての試みであると思うので、ぜひ失敗しないで、子供たちや地域の人々にとって喜ばれる学校を作してほしい。</p>
教育総務課長	① まだ、具体的に埼玉県とはやりとりをしていない。県内で初めて春日部市が義務教育学校を開校させたが、春日部市に聞いた話では、

<p>学校教育部次長</p>	<p>県とのやりとりは手探りの状態だったとのことだ。これからは、春日部市の義務教育学校を参考にしながら、県からの協力を仰いでいきたい。</p> <p>② 手順について、具体的な事項を各専門部会で検討するが、学校を運営するに当たっての計画や施設面の計画は適宜作成していく。令和4年度の開校に向けて、ギリギリまで準備に時間を掛ける訳にはいかない。開校に向けてスケジュールを示し、具体的な事項をできるところから決めていきたい。</p> <p>③ 新たな学校を開校するときには、「子供たちの学力を伸ばす」「子供たちが分かる授業を行う」という体制を整えていけるように、今から最大限努力をしていく。他市の例など情報を収集しながら、計画を進めていきたいと考えている。</p> <p>補足説明をさせてもらう。学校教育課として、東部教育事務所と埼玉県の小中学校人事課と連携を図っている。新たな学校が開校してからでなく、準備段階でプラスアルファの教員が必要になってくるので、準備の段階から教員の配置について要求していきたいと考えている。また、義務教育学校では、原則小学校と中学校の両方の免許を持った教員がいることが望ましいことから、そういった教員を配置できるように計画的に準備していく。</p>
<p>参加者B</p>	<p>義務教育学校を設置するに当たり、どのくらいの費用が掛かるのか。また、国や県から補助金がもらえるのか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>学校の施設について、新たに作る場合や改修する場合に国の補助金を利用することができる。また、学校を増設する場合は、国の負担金制度がある。学校の統合が関係する校舎の増設は、国が半分負担することになっている。県の補助金は、学校施設に対してはない。補助金以外の費用について、長く使用する施設は市が借入れをして負担を少なくすることができる。つまり、掛かる経費の半分は国からの補助金を活用し、半分は借金をすることを考えている。</p> <p>施設の規模が確定していないが、試算すると新たな校舎は2億円程度、既存の校舎の改修には1億円程度かかる。</p>
<p>参加者F</p>	<p>小山市の絹義務教育学校と春日部市の江戸川小中学校は、今度開校させようとする見沼中学校区の義務教育学校の規模と似ているとのことだが、再編成計画では南河原小中学校を含めた北部地域全体で義務教育</p>

<p>教育総務課長</p>	<p>学校を設置することを掲げており、見沼中学校区の義務教育学校はその途中であると認識している。これから開校準備委員会を設置し、新しい校歌を作成するなど準備を進めていくことになるが、見沼中学校区の義務教育学校を開校させても、さらに10年後の再編成に向けて再び同じ作業を行うことになる。次のステップを考えると、見沼中学校区の義務教育学校の開校に向けての準備に力が入らないと考える人もいると思う。北部地域における2段階の再編成について、教育委員会としてどのように考えているか。</p> <p>小山市では、市全体の学校の再編成計画はない。絹義務教育学校は、この先どうなっていくかは不確定である。行田は30年先を見据えた計画となっている。北部地域については、まずは複式学級の解消を目指すことを第一に考えており、その後、見沼中学校区の義務教育学校が適正な規模で存続していくことは困難であることから、段階的に再編成していく計画とした。今回の再編成に向けて準備を進めていく中で、2032年度に北部地域全体で再編成を進めていくことを意識して、協議を行っていく必要があると考える。</p>
<p>参加者F</p>	<p>南河原小中学校でも、見沼中学校区の再編成と同時に話し合いを持つ場を設定する必要があると考える。これから見沼中学校区の義務教育学校と再編成していくことを伝えていかないと、前回の北河原小と南河原小の統合がうまくいかなかったときと同じになってしまう。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>南河原小中学校でも、小中一貫教育を取り入れていくことを考えているので、北部地域全体として再編成することを意識してカリキュラム編成をしていかなければいけない。見沼中学校区の再編成と平行して、南河原地区でも話し合いを進めていきたい。</p>
<p>参加者A</p>	<p>北部地域の再編成は、南河原小中学校だけでなく北小も対象になっている。見沼中学校区の義務教育学校の校歌などを作る開校準備委員会に、南河原小中学校や北小の関係者も入るのか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>計画として、北部地域の再編成に南河原小中学校の他、北小も対象になることを示しているが、児童生徒数の状況で計画を見直すこともある。北小の多くの児童が星河地区から通学しているが、星河地区について中学校は長野中と忍中に分かれ、小学校は北小と中央小に分かれている。よって、北小が北部地域として南河原小中学校と共に再編成してい</p>

<p>参加者 A</p>	<p>くかは継続的に検討していく。現時点で、見沼中学校区の義務教育学校を立ち上げていくための開校準備委員会には、南河原地区や北小の関係者に入ってもらうことを考えていない。</p> <p>短期的な計画として、北部の4校は再編成して新たな学校を設立していくとし、2032年度の北部地域の義務教育学校の設置や他の地域は35年先の計画を示しているが、長期的な計画については状況によってどうなるか分からないということではダメだと思う。南河原小中学校や北小には、2032年度には北部地域で再編成するということを理解してもらい、見沼中学校区の義務教育学校の教育方針に賛同してもらえるように働き掛けてもらいたい。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>現状を見て今回の再編成計画を作成し、なぜこの計画に至ったのかについては、これまで説明をさせてもらい、これからも説明していく必要がある。10年、20年先の子供たちの数などは想定できない部分もあり、教育委員会では今考えている最善の方法を示している。今後もそのときの状況により、具体的な説明を行い、理解してもらおうと考えている。</p>
<p>参加者 A</p>	<p>長期的な計画について不明瞭な部分があると、見沼中学校区の義務教育学校を作っていく際に力が入らないのは当然である。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>今回の計画は、将来的に適正な学校の規模を示した計画となっている。これは、前回の再編成が失敗に終わった反省を踏まえ、行田市の30年先の学校の姿を示したもので、教育委員会として想定をしておく必要があるものである。短期的な計画として、複式学級など課題がある学校は、その解決を図っていこうというものである。具体的には、見沼中学校区の小中学校の他、中央小と星宮小、さらには太田西小と太田東小の再編成を具体的に進めていくものである。</p>
<p>参加者 G</p>	<p>現状を考えると、義務教育学校を開設せざるを得ないと考えている。教育委員会の立場からすると、学校の再編や義務教育学校の設置に多くのメリットがあると思う一方で、保護者からすると不安からデメリットを見つけてしまうという心情になっている。必要なことは、義務教育学校について客観的に見て、メリットの中に潜むデメリットを一つずつ潰していくことである。小中一貫教育に関するアンケート結果も肯定的なものばかりであるが、答える生徒が否定的に答えるとは思わないので懐</p>

<p>鈴木教育長</p>	<p>疑的である。よって、これから作っていく見沼中学校区の義務教育学校を何とかよいものにしてもらいたい。新たな学校で起こるさまざまな問題に対して対応できるように、想定しながら学校を作ってもらいたい。</p> <p>前回の地域協議会では、鈴木教育長から何も発言がなく残念に思った。教育長は、学校再編に対してどのようなビジョンや覚悟をもっているのか。教育長にしてみれば、威信を掛けたプロジェクトだと思う。</p> <p>これまで説明会や地域協議会、保護者との意見交換会において、皆様から意見をいただく中で、複式学級を解消し、一定の規模を確保するため再編成を行うことについては賛同を得たと認識している。一方で、見沼中学校の敷地内で義務教育学校を設置し、9学年が共に学校生活を送ることについては、保護者から先進的な取り組みを期待していると同時に、新たな学校で子供たちが生活することに対して不安があるということは理解している。教育委員会としては、国における教育制度のビジョンや全国的な小中一貫教育の動向、さらには本市における小中一貫教育の実践研究を踏まえ、子供たちの学力向上や安全面、社会性、コミュニケーション能力など豊かな人間性を育むことに成果を上げることができると判断し、今後全市的に小中一貫教育を推進していくものである。特に見沼中学校区においては、小中学校を一体とする義務教育学校を設立したいと考えている。見沼中学校区における再編成においても、必ずしもクラス替えが可能な規模にならないということは、重く受け止めているが、小規模校であるからこそ、見沼中学校区だからこそ、一人の校長が指導力を発揮して9学年全体を把握し、一つの教員組織を束ね、小中の先生が総力を合わせて協力し合いながら、全員で一人一人の子どもを見ていくということができると考えている。そういう意味で見沼中学校区の義務教育学校は、よりよい教育を実現するのに最適な学校だと考えている。その中で、地域の皆様や保護者の皆様の力をいただきながら、特色ある教育を行田市内に、あるいは県内に発信できる小中一貫教育のモデルとしての義務教育学校を作っていく覚悟である。運営の詳細について今後検討する中で、あるいは開校準備委員会の部会の中で、慎重に詰めていかないといけないことや課題について一つ一つ潰していく場面も多々あると思う。子供たちのために日夜奮闘している先生と一体となって、教育環境の向上、教育内容の充実につながるように最大限の努力を教育委員会として行っていく。私としては、見沼中学校区の小学校3校と中学校1校の枠組みの中で、令和4年4月1日に新たな学校を開校することを目指して、再編成と義務教育学校の設置についての方針を決定し、それに向けた具体的な準備を一日でも早く進めていく覚悟であ</p>
--------------	--

<p>参加者G</p>	<p>る。「失敗は許されない」という言葉を重く受け止めている。その覚悟でこの教育委員会のメンバーもいる。「見沼中学校区の義務教育学校に通ってよかった」と思えるような素晴らしい学校にするために、決意と使命感をもって取り組んでいく。</p> <p>新たな学校を作っていくのに、一番苦勞するのは現場にいる教員である。お互いにタイアップして、十分な協議を重ねて新しい魅力的な学校を作ってもらいたい。子供たちが「あの学校に通ってよかった」と思って卒業できるような学校を作ってもらいたい。難しいことだと思うが、期待している。</p>
<p>参加者H</p>	<p>令和4年度の義務教育学校に向けて、進めてもらいたいという気持ちがあるが、見沼中学校区の義務教育学校は、その先の北部地域の義務教育学校の前提として、つまり臨時的な措置としての学校なのか。北部地域の義務教育学校を作る際に、南河原小中学校と北小が吸収されていくという考えであるならば、再び問題が起きるだろう。再編成してさらに10年後のことを見据えて、今回の再編成を進めてほしい。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>見沼中学校区の小中学校を再編成した後、さらに10年後には北小の校舎が建替えの時期になることから、北部地域全体で再編成を行っていくものである。「吸収」という考えは、今回の計画では示していない。10年という短い期間ではあるが、それぞれ地域が関係し、「私たちの学校なんだ」と誇れる新しい学校を作っていく。その後の北部地域全体の義務教育学校も、同じ考えで作っていく。</p>
<p>参加者H</p>	<p>見沼中学校区の義務教育学校は、10年間の臨時的な学校と認識してよいか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>教育委員会としては、臨時的な学校という考えはない。行田市として初めて小中一貫教育を取り入れ、義務教育学校を作っていくという取り組みであることから、これから行田市が進んでいく方向の一番手になってくると考えている。行田市は小中一貫教育を取り入れていくことで、これまでの教育を変えていき、義務教育9年間の中で子供たちにどんな力を身に付けてほしいかを意識した教育にしていく。その先駆けとして、この学校を位置づけているので臨時的なものとは捉えていない。</p>
<p>鈴木教育長</p>	<p>見沼中学校区で義務教育学校を建てたという金字塔、つまり柱は揺る</p>

<p>参加者H</p>	<p>がさない形で、新たに北部地域一体での義務教育学校の設置を考えている。スタートからこれだけ皆様と話し合っ苦勞しながら力を合わせて作っていくといった実績を生かし、モデル校として市内の学校に発信し、各学校で小中一貫教育に取り組んでもらおうと考えている。これから公共施設のマネジメントや人口減少などの状況を見て検討していく必要があるが、見沼中学校区の義務教育学校で一から作って行く教育内容や方向性は生かしていきたいと考えている。</p> <p>南河原小中学校や北小の児童生徒や保護者、地域の方が「見沼中学校区の義務教育学校に行きたい、子どもを学ばせたい」と思う学校を作ってもらいたい。</p>
<p>参加者G</p>	<p>新しい学校を作っていくときには、多かれ少なかれ教育現場において混乱が生じると思う。この混乱に対して、どのように対応していくか方法を含めて考えてほしいと思う。</p>
<p>司会</p>	<p>教育委員会一同、覚悟をもって見沼中学校区の再編成に取り組んでいく。今後は、開校準備委員会と各専門部会を設置し、さまざまな事項を検討していくが、その際、地域の皆様や保護者の皆様、学校の先生方の協力が必要になる。これから教育委員会から各団体へメンバーの推薦依頼をさせてもらうので、対応をお願いしたい。</p> <p>5 閉会</p>